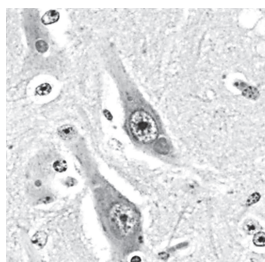


日本獣医病理学専門家協会

(動物病理学の高度な知識・診断能力を有する専門家集団)

- 1 協会名：日本獣医病理学専門家協会
Japanese College of Veterinary
Pathologists (JCVP)



JCVP ロゴマークとホームページ掲載の牛の海馬錐体細胞組織写真。What is your diagnosis? (解答は文末)

2 事務担当：

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-12
(株)アイベック JCVP 事務局補佐担当
TEL 03-6822-9767
FAX 03-5978-4068
E-mail jcvp@ipcc-pub.co.jp
URL <http://jsvp.jp/>

3 目的：

日本獣医病理学専門家協会 (JCVP) は、獣医病理学及びその関連領域における学術研究の進歩と普及を図り、専門知識の深奥化と総合化に基づき獣医病理診断学の向上と獣医病理学の発展に寄与することを目的として活動している。

4 組織：

理事長：山手丈至 (大阪府立大学)
副理事長：中山裕之 (東京大学)
鈴木雅実 (中外製薬)
理事：11名
監事：2名
会員：384名 (平成30年4月1日現在)
賛助会員：16社

5 沿革：

本会は平成3年(1991年)4月に57名の発起人(評議員)と大島寛一理事長、藤原公策副理事長のもと発足し、活動を開始した。本会の発足に当たっては、米

国 American College of Veterinary Pathologists (ACVP) の発足に携わった Johns TC 博士より多くのアドバイスをいただき、同氏は本会第1号の名誉会員として推薦された。平成5年(1993年)11月には第1回目の資格認定試験が実施され97名の受験者のうち69名が合格した。以降試験内容の見直しを行いつつ、2018年度試験で26回目を迎える。近年5カ年(2013~2017年)は、安定して25~35名の受験申込があり、毎年試験に合格した15~20名程度の新規会員を迎え入れている。

本会は発足当初より日本獣医学会とともに活動を行ってきた。学部教育における教科書出版やセミナー学術集会の企画・開催は、おもに日本獣医学会傘下の日本獣医病理学会が担当し、本会は卒後教育や専門医認定試験の実施により、日本における獣医病理学の専門家の質保証を担ってきた。その後、平成24年(2012年)に日本獣医学会が公益社団法人として認可され、日本獣医病理学会は病理学分科会に改名された。また平成26年(2014年)より日本獣医学会の学術集会は年1回開催となった。これらの変革に合わせ、本会は同年より独自の年次学術集会を企画開催すると同時に、これまで日本獣医病理学会が編集してきた「動物病理学総論」、「動物病理学各論」、「動物病理カラーアトラス」の教科書の改訂・編集作業も行っている。

6 活動内容と特色：

本会はおもに次の事業を実施している。

(1) 獣医病理学に関する研修・研究集会の開催

平成26年(2014年)から学術集会を企画開催するとともに若手会員(40歳未満)を対象に、海外派遣事業や奨励賞制度を設定し、獣医病理学の将来を担う人材の育成を図っている。

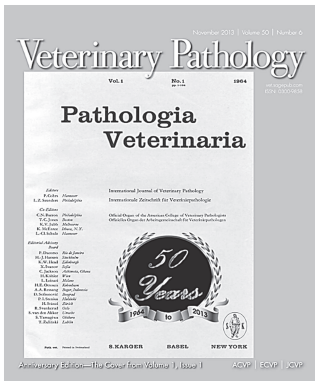
(2) 会員資格の認定

本会では日本の獣医病理学専門家が備えるべき知識と実践能力の水準を明示し、獣医病理学専門家の質的レベルを一般社会に開示するとともに、獣医病理学の専門家を目指す人たちに勉学の指針を与えることを目的として年1回、資格認定試験を実施している。

(3) 会報の発行と学術雑誌の編集

本会では、本会の会員及び日本獣医学会病理分科会の学生会員を含むすべての会員に向けて、年2回

の会報（和文）を配布している。また獣医病理学の国際的な専門誌である“Veterinary Pathology”（初刊発行1964年）の編集を、2009年第46巻よりACVP、ヨーロッパ獣医病理学専門家協会（ECVP）とともに共同編集している。現在、本会からはEditor（1名）、Section Editor（1名）、Editorial Board（4名）がVeterinary Pathologyの論文審査や編集作業に参画している。



Veterinary Pathology
 JCVFがACVP,ECVPとの共同編集するVeterinary Pathologyの2013年11月号.50周年記念号に1964年初刊の表紙が復刻された。Editorial Boardに山極三郎（帯広畜産大学）の名前がみえる。

7 入会のための資格認定試験と資格更新制度：

本会の資格認定試験の受験資格は、

- ①日本獣医学会登録会員であること
- ②獣医病理学に関する専門的研究または職業に3年以上従事したことを証明できること

③レフリー制度の確立した学術雑誌に獣医病理学関連の論文等（共著も可）が1報以上あること

④本会が指定する研究会等に合計3回以上参加していること

である。

試験申込の期間、試験日と会場及び必要書類は本会のウェブサイトと会報で確認できる。試験科目は全員が受験する病理学総論、画像試験、鏡検試験と、事前に受験者が2科目選択する病理学各論（産業動物、伴侶動物、実験動物）である。鏡検試験では15症例のガラス標本を鏡検し、病理診断に必要な知識と能力を多角的に試験している。

また本会会員は、資格取得後5年ごとに所定の要領により資格更新審査を受けることを義務付けられており、最新の獣医病理学の知識や技術を常に修得することが求められる。

年会費：個人会員 9,000円

賛助会員 1口 50,000円

（2018年4月現在）

8 文責者：内田和幸（広報・企画担当理事）

【文頭正解】狂犬病（Rabies）

神経細胞に明瞭な細胞質内封入体（Negri body）が認められる。